

「2015年延世大学校スプリングスクール参加報告書」

京都大学農学部一年 根本 翔

私はアジア研究教育ユニット派遣プログラムの2015年延世大学校スプリングスクールに参加した。このプログラムでは延世大学校の韓国語学堂で行われている正規過程である十週間の韓国語講座の最後の三週間に参加し正規過程の生徒と一緒に韓国語を学ぶというものである。クラスはレベル別に振り分けられ、私のクラスは韓国語を初めて学ぶ生徒が集まるクラスであった。三週間の生活を通じて、韓国語の聞き取りと会話については特に私が成長することができた点である。それはやはり日本ではできない韓国語に囲まれて生活するということにより、韓国語に多く触れ聞き慣れる、話し慣れるということにより得られたものである。たとえ相手が話すすべてのこと理解することができなかつたとしても文脈や状況から自分の知っている知識と合わせて理解に近づけるということを多く経験できたことは私の今回のプログラムにおける韓国語学習の成果といえる。

途中から正規過程の生徒とともに受講した私は初め聞き取りと会話に苦労した。京都大学において第二外国語として朝鮮語を受講していたことで、授業で学ぶ文法や単語は一度学んだことのあるものが多かったが、このプログラムにおける授業は基本的に韓国語で行われているので、もちろん授業中の質問などもすべて韓国語でしなければならず、自分の知っている文法や単語が相手との会話の中に出てきても何度か聞き返してやっと理解できる程度であったので苦労した。しかし、三週間授業を受けたり、そのほかにも韓国人の友達と韓国語で話したりすることで少しずつではあるが相手の話す内容を聞き取れるようになるという自分でも驚くほどの成長を感じることができた。

また、私はプログラムを通じて英語の必要性を感じた。私のクラスはアジア圏以外から来ている生徒が多かったため、休み時間などは英語がコミュニケーションにおける基本的な言語であった。そして授業で使われたテキストも、内容は同じであるが日本語で文法や単語が説明されているもの、英語で説明されているものがあり、私たちは前者を使って韓国語の授業を受けていたが、私以外の生徒はすべて後者を使って授業を受けていた。これは英語が使えることが前提として作られていることがわかる。日本人生徒以外は英語が母国語であろうとなかろうと英語を通じて韓国語を学んでいたわけであり、それができなければ韓国語を学ぶことができないことを意味する。こうしたことにより英語が世界の標準語として使われていることを再確認することになった。それに加え、今回延世大学の生徒との交流も多く、このプログラムには彼らとの英語での討論もあった。内容は戦後の日本についてであり、参加した延世大学校の生徒は好奇心を持って日本人としての考えを尋ねてきたが、自分の意見をうまく表現できずもどかしさと恥ずかしさを感じた。やはり、英語で言いたいことを表現できる力は海外においては必ず必要である。これは今後の英語学習においても非常に重要なモチベーションになるはずである。

今回のプログラムを通じて多くの国や宗教の違う人と話すことができた。韓国の大学生とは話す機会も多く、非常にいい経験になった。特に男性は兵役があり、そのことについての意見交換ができたり、日常生活の違いなども話し合ったりして、お互いの理解を深めることができたと思う。また、同じクラスであった生徒には様々な理由やモチベーションを抱いて韓国に来ていたことがわかった。そういった話を通じて考え方や生き方の違いを感じることもできたこともとても刺激的であった。自分の見聞を広げるとともに、今後についてももっといろいろな価値観に出会っていきたい。そしてこのプログラムを通じて出会えたすべての人に感謝する。

한국에서 많은 사람들을 만났습니다. 부드럽게 재미있는 친구가 되었습니다. 많은 좋은 경험이 되었습니다. 이 경험을 잊지 않겠습니다. 한국의 생활은 매우 자극적이고 즐거웠습니다. 또 한국에 가고 싶어요. 정말 감사합니다.